

さげてむすをつかみてげり、つよくつかまれて、蛇をりをひしくとまきけるが、次第につよくまかれて、をりの屋のうへやぶれて一所へとりよせたるやうになり、けり、老もはつちに打入れたればはたらかず、其時くまだか蛇のくびをくいきりにければ、まとひつるもとけにけり、それより蛇うせて人なやむ事なくなりて、村里のよろこびにてぞありける。

〔羅山詩集五十六〕白鷹

去冬長門國有白鷹、以其不常、故欲獻幕府、老臣等相議、吉凶如何未決、既而赤間關司毛利秀元沒于江府之私第、時間十月三日也、今年辛卯四年慶安正月六日、國主毛利秀就卒于其國城、可以異也、幕府自仲春疾病、彌留大漸、孟夏二十日、遂薨、嗚呼可大怪也、是白鷹之祥乎、吉凶可見、且風聞、相國家康公即世之時、白鷹出、相國秀忠公薨背之時、亦白鷹出、三葉之崇之在于白鷹、吉凶果在人乎、在白鷹乎、抑亦命數乎、妖勝德乎、書以告後世、

國脈氣脈蓋救護、傳世未晞、朝暮露于、畝殺氣如白鷹、宇内變色果縞素、

〔甲子夜話二十三〕了圓翁外山家ニ居リシトキノ事トヨ、縉紳某卿筆道ヲ好ミ習學怠リナカリシニ、其軒前ノ庭樹ニ鷹巢ヲ結ブコトアリ、卿コレヲ喜テ、園丁ニ命ジテ巢ニ妨アルコトヲ戒ム、數日ノ後、雛ヤ育シ親鳥ト共ニ飛去リ、復來ルコトナシ、卿ノ云ク、鷹巢ニハ必ズ名器ヲ置ト、サダメテ此中ニ有ベシトテ、人ヲシテ視セシムルニ、果テ一軸ヲ遺ス、乃取テ見ルニ、卿嘗所筆ノ手帖ナリ、卿大ニ駭キ且コレヲ好シ、取テ以テ家藏トス、今其家コレヲ傳ヘテ鷹巢帖ト名ヅケテ、子孫襲寶スト云、

鷹利用

〔本草和名十五〕鷹矢白、一名鵬、一名隼、一名青骸、一名金喙、已上出和名多。加乃久會。

〔宜禁本草諸禽〕鷹屎白、主傷撻、滅癩、單用不滅癩、和姜蠶衣魚之屬、爲膏用之、眼睛和乳汁研、夜三注

眼中、三日見碧霄中物、